

国際かんがい排水委員会等活動支援調査事業

【令和2年度予算概算決定額 37（32）百万円】

<対策のポイント>

国際かんがい排水委員会（ICID）や国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）での活動を通じて、かんがい排水に関する国際的な議論のリードや情報収集、ソフトインフラを含む我が国の技術・研究の普及、メンバー国との協力関係の深化等を図ります。

<政策目標>

我が国の主導によりかんがい排水分野におけるワークショップ等を開催し、同分野における我が国の技術・研究成果を普及（7回以上〔令和2年度まで〕）

<事業の内容>

1. 国際かんがい排水委員会活動促進支援調査 18（22）百万円

- 国内委員会の開催、ICIDアジア地域作業部会ワークショップの開催、世界かんがい施設遺産普及活動、中堅・若手専門家育成のためのかんがい排水分野の研究シーズ調査等の、ICID日本国内委員会の活動及び運営を支援します。
- 国内委員会委員及び若手専門家等を、ICID国際執行理事会や各種作業部会等、ICIDが行う活動に派遣します。
- ICIDの各種会合における議論・課題及び最新の技術・研究等の情報収集等を行います。

2. 国際水田・水環境ネットワーク活動強化 19（10）百万円

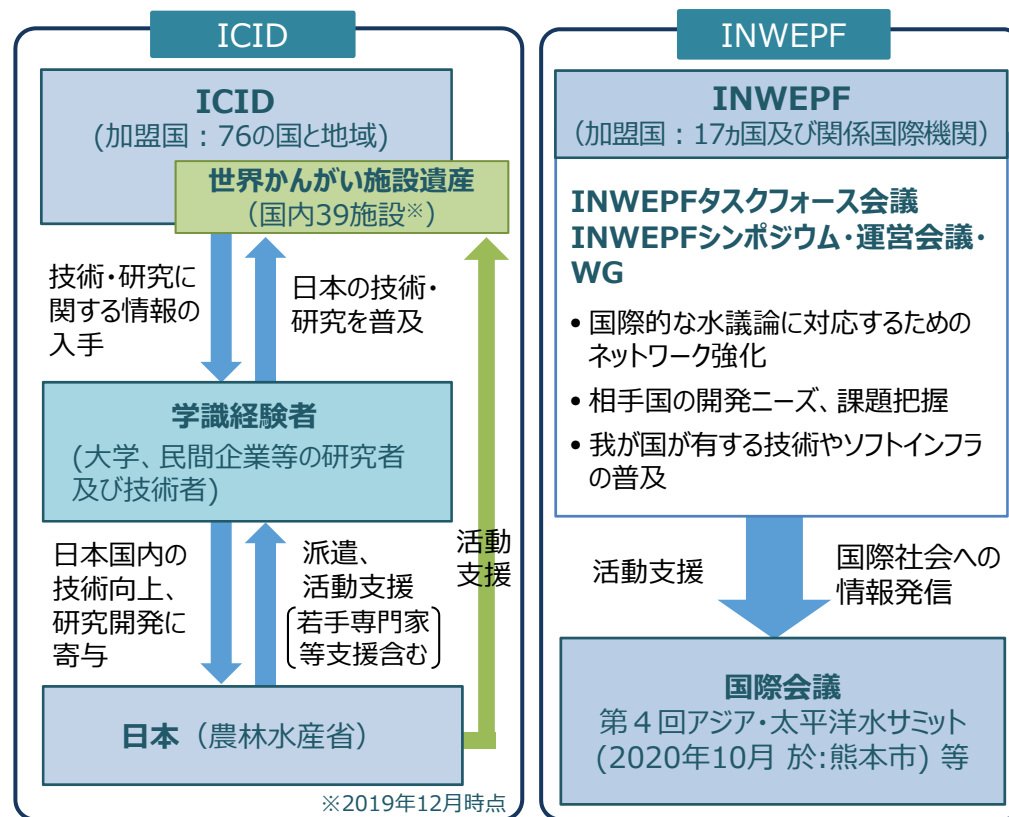
- INWEPF運営会議や作業部会等、INWEPFが行う活動に参画するとともに活動を支援します。
- INWEPFの各種会合における議論・課題及び最新の政策・技術等の情報収集等を行います。
- 第4回アジア・太平洋水サミットにおいて、INWEPFの枠組みを活用した農業用水分野の取組としてセッションを開催し、情報発信を行います。

〔事業実施期間：1の事業 平成29年度～令和2年度
2の事業 平成30年度～令和2年度〕

<事業の流れ>



<事業イメージ>



【お問い合わせ先】 農村振興局設計課海外土地改良技術室（03-3595-6339）

【参考】 国際機関の概要（ICID及びINWEPF）



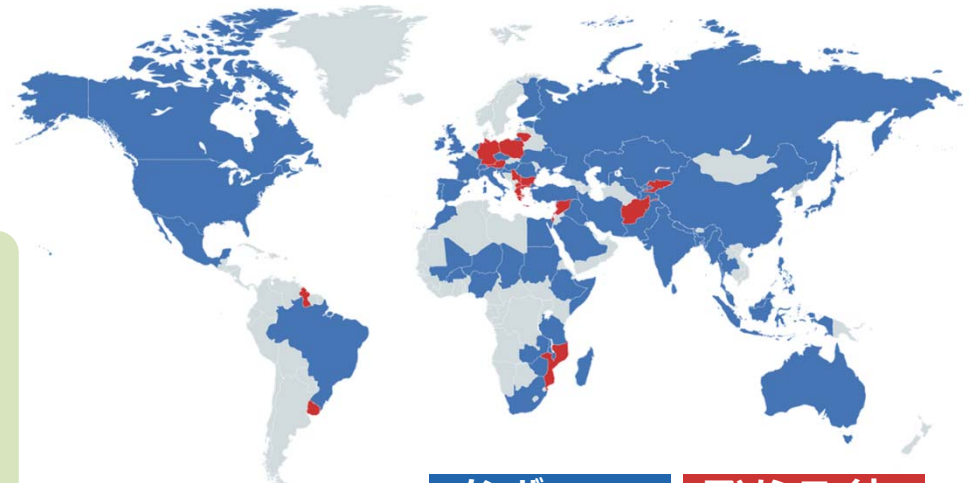
国際かんがい排水委員会（ICID：International Commission on Irrigation and Drainage）

ICID-CIID

- かんがい排水に係る科学的・技術的知見により、食料等の供給を世界規模で強化することを目的として1950年に設立された自発的非営利・非政府国際機関。
- 世界の76の国と地域が加盟し、各国は国内委員会を設置。我が国は1951年に閣議決定の上加盟。

ICID Vision 2030（2015年10月ICID国際執行理事会採択）

- ・ 「持続可能な農村開発を通じた、貧困と飢餓から解放されたwater secure world（水供給が保証された世界）の実現」を目的とし、6つの目標（Goal）を設定。
- ・ 2017年9月に策定されたアクションプランでは、YP（Young Professional）制度の活用を推進。
 - YP制度：40歳未満の専門家に対し、会議参加費の減額や作業部会への参加資格を付与。



メンバー

アソシエイト



国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF：International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields）

- 第3回世界水フォーラム（2003年3月京都）の一環として開催された「水と食と農」大臣会議を契機に、我が国が主導して創設した水田農業・水環境に関する国際ネットワーク。（2004年11月設立）
- 上記大臣会議で採択された3つの挑戦「食料安全保障と貧困軽減」「持続可能な水利用」「パートナーシップ」の具現化を目的とする。

- ・ メンバー国：日本、韓国、中国、マレーシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、タイ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、ラオス、バングラディシュ、エジプト、インド、パキスタン（17カ国）
- ・ 関係国際機関：FAO、ICID、IWMI（国際水管理研究所）、MRC（メコン河委員会）等

